

質問4 所属する学会について <複数回答可> (その他)

その他記述	件数
日本RNA学会	2
日本ウイルス学会	2
ASCB	1
JRE 生殖工学	1
The American Society for Cell Biology (USA) Society of Developmental Biology (USA) The Society for Research on Biological Rhythms	1
数理生物学会植物学会	1
生物工学会、再生医療学会	1
蛋白質科学会	1
日本ゲノム編集学会、染色体学会	1
日本育種学会	1
日本化学会	1
日本解剖学会	1
日本眼科学会、日本緑内障学会	1
日本結晶学会	1
日本研究皮膚科学会 日本毒性学会 日本蚕糸学会	1
日本顕微鏡学会	1
日本骨代謝学会	1
日本細胞性粘菌学会、日本生態学会、日本進化学会	1
日本獣医学会	1
日本獣医学会、日本進化学会	1
日本植物学会	1
日本植物生理学会、日本植物細胞分子生物学会、日本応用物理学会	1
日本人類遺伝学会	1
日本生物工学会日本酵母遺伝学フォーラム	1
日本蛋白質科学会	1
日本動物学会	1
日本動物学会 日本放射線影響学会	1
日本動物学会日本進化学会	1
日本農芸化学会、日本結晶学会	1
日本農芸化学会、日本進化学会、日本ゲノム微生物学会	1
日本繁殖生物学会	1
日本肥満学会	1
日本病理学会	1
日本薬学会、アメリカ質量分析学会、アメリカ生化学分子生物学会	1
日本薬理学会、日本糖尿病学会、日本病態生理学会、ヨーロッパ糖尿病学会 (EASD)	1
肥満学会	1
米国人類遺伝学会	1

質問5. プログラム集冊子のA5判形態について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	冊子が小さくコンパクトになるのは嬉しいが、字が小さいと読めないで、意味がない。ということは無くても良いのかもしれないが、参加した証、としては欲しい方もいるのでは。冊子は作成して頂き、現状よりも字が大きくなることを望みます。
※	とても良かったです。プログラムだけのミニ冊子もあって助かりました。
※	展示会場の地図(企業等の展示ブースの位置がわかるもの)を付けて欲しい
※	今回初めてですが、演題が多いため、このサイズでは要旨が読みづらかったです。年齢による目のよしあしがあるので、偏った意見かとは思いますが、アプリをPCにもダウンロードできれば、それで十分な気がします。
※	持ちやすかったが字が見にくかった。
※	A4判からA5判に変更した理由は多々あると思いますが、もし各参加者への送料などが問題であれば、会場での受け取りでも良いのではと思います。
※	冊子印刷版は事前登録申し込み時点で要・不要の選択方式にした方が良いでしょう。また冊子がA5版なのは、ipad miniなどのタブレットに比べると一回り大きく一緒に持ち歩くのが若干不便なので、演題名の文字数削減や発表著者の「et al.」採用等で簡略化の上で、更に小さいB6版にした方が良いでしょう。
※	重くないので持ち運びに便利だった
※	過去の要旨集の重さを懐かしみながら、スマートフォンで要旨を確認して便利さを身に染みて感じました。

質問6. ITシステムについて <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	全文横断検索されていたのかいなかったのか解らないが、key wordから漏れるものがあったような気がする。abstractにe-mail掲載OKにして(勿論選択制)、連絡出来るようにしては？(登録時にそんなオプション無かったでしょうか・・・)
※	自分の発表に紐づく、大枠のセッションにも、ブックマークしたところから移動できると良かった。
※	プログラムの検索機能で、カテゴリやプログラムとの複数条件での検索できる機能が欲しかった。
※	会場内のwebアクセスが悪かったため同期が反映されにくかった。
※	会場でアプリが重く検索ができない。
※	メモをとったものの、プリントアウトや転送など、はきだすことができなかったのが残念。webシステムではメモをとることができない？アプリで、メモを取るには画面が小さすぎた。検索機能は癖があるようで、目的の発表になかなか行き当たらなかった(原因不明)全体のタイムテーブル(別冊の小冊子)が便利であった。あの機能がアプリにあるとよいのですが。
※	海外からの参加者です。一部の会場でWifiが使えず、WEBシステムだけでは不便であると感じます。
※	プロフィールを非公開に設定した方が多いように感じ、せつかくのSNS機能が勿体ないと感じた。
※	イネ！を付けた人の名前は付けられた本人に分かるシステムがよいです。
※	人名検索が使いにくかった。例えば「氏」と「名」の間に空間を入れても入れなくても検索できるようにしてほしい。特によくある「氏」の人を検索するときに使いにく感じました。
※	アプリの反応が遅かったり、スケジュール登録が不便な事が多かった。可能ならば、特別なIDやパスワードを共有した同一所属内等だけでスケジュールを共有出来る機能が有れば良かった。また、演題登録時にキーワードを自由記述以外に過去の傾向から頻出ワードを幾つか選択出来る様にして欲しい。若干の表現の違いで検索にかからず、見落とす事があった。
※	昨年の方が使い勝手がよかった。
※	iPadにアプリインストールができませんでした。
※	全体的には大変使いやすく、スマホの画面で十分な見た目と情報量が満足。演題絞り込みの際、下層のカテゴリーがすべてであるとありがたい(ポスター>日付>ジャンル ポスター>ジャンル>日付 など)。大会中はオンラインであるならば、実際のシンポジウムの進行などを反映させてほしいと思った(必須ではないが、そうでないならオンラインの意味があまりないと感じた)。
※	スマホ、iPadを使用していないので、本システムは利用していない。
※	発表者検索をして、その人の発表演題を確認できても、そこからマイスケジュール登録やいいね！を押せないようだったので、少し不便でした。いいね！ボタンはあまり使われてない印象だったのでせつかくあっても意味がない感じで、その辺は難しい課題かもしれないと感じた。

質問7. 会期中に使用された主なITシステムについて（その他）

回答者 番号	その他記述
※	アプリを中心に、全体のタイムラインがみられる小冊子で会場とシンポジウムを把握して動いていました。ウェブシステムはホテルなど広い場所のあるところで使用
※	一部の会場でWifiが使えず、ITシステムの使用は利便性が少ないと感じました。

質問8. シンポジウムと特別講演について <複数回答可> (テーマが偏っている)

回答者 番号	テーマが偏っている記述
※	偏っているというか、ピンポイント過ぎるので、隙間産業の口頭発表機会が無さすぎる。
※	テーマはよいが同じようなシンポジウムが同時に進行すると聞けない。人気のある会場はもっと大きな部屋をあてるべきである。
※	分子生物より(分子生物学会ですが、扱うテーマは幅広いので)なテーマが多かったと思います。専門外でしたので勉強になりましたが、なぜそのシンポジストであったのかを(著名な先生方ではありますが)、要旨集などでご紹介くださってもよいかと思えます。
※	シンポジウムでの一般公募枠が少なく、願わくば一般公募枠が増えると、若手にとって学ぶことが多いかと存じます。
※	研究の流行はありますが今回、3-4コの分野で集中している感じでした。
※	分野の近いシンポジウムの時間が重なっていたため、どちらかしか見られなかったのは残念だった。シンポジウムの内容によって日時が重ならないように考慮してほしい。
※	テーマが細かい。ニッチを狙ってばかりの印象を受ける。
※	現在研究が盛んなので偏っているかは難しいが、今回自分がミトコンドリアに興味があつて行ったのでシンポジウム何個もあつたなあと感じた。別に悪いわけではないし、自分的には勉強になったけど、どうなんでしょう。もはや朝から晩までぶっ通しでもいいのかも…。

質問8. シンポジウムと特別講演について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	増やす事はシンポジストのみならず、おそらく一緒に付いて来るだろう海外の研究者との接点も増やしやすいと考えられる。気のせいか、今年はポスターセッションまで見に来る外国の方が例年より少ない様な気がしたので、特にそう思う。

質問9. シンポジウムの使用言語について（その他）

回答者 番号	その他記述
※	英語セッションで日本語可としても、遠慮してるのか、なかなか質問はありませんでしたね。
※	スライドは日本語も可にしておくべきだと考えてます。少なくとも、こうしたものは発表言語に依存するべきで、スライドを英語に縛った意義はあまりなかった。
※	英語セッションで日本語で質問しているひとはいなかったとおもう。
※	日本の学会ですので、必ずしも英語セッションは必要はないと思っております。もし英語のセッションをするのであれば、言語は統一するべきと感じております。生命科学では研究環境が国際化しているので、英語で深みのあるディスカッションが出来ない人がいるとは思えません。
※	違う分野の英語の聞き取りが難しく、結局日本語のシンポジウムに絞ってしまった。
※	もっと日本語を大切にしてほしい。
※	英語のセッションが少なくなっているように感じた。また、日本語セッションでも、スライドの使用言語は英語に徹底したほうが良いと思う。
※	国際化を目指す全体方針は良いが、ポスター・口頭共に英語に偏り過ぎると海外の学会だけで良いと判断する所が増えて来ると思われる。海外からの招聘などネイティブのシンポジウムを増やす一方で、学部生・修士辺りの年代のためのチャレンジ企画が有っても良いかもしれない。
※	”英語セッションにおいても質疑応答は臨機応変に「日本語も可」というのは知りませんでした。
※	自分の参加していた英語セッションではディスカッションが日本語で行われることはありませんでした。

質問10. 一般演題について <複数回答可>(その他)

回答者 番号	その他記述
※	参加したいプログラムが同一時間帯に開催されることがおおく残念だった。
※	ポスター発表に明確に偶数奇数で別ける、という記述が無かったため、いつポスターを離れたら良いのか、もしくはいつポスターの前にたてば良いのかよく解らなかった(のですっといないポスターもあったが・・・これはいつもの事か)。なので、はっきりなしに人が来て、自分のセッション中、なかなか他を見に行くことが出来なかった。
※	今回初参加でしたが、ポスターセッションは思ったよりも短く感じました。残念ながら他の発表(=自分と同じ分野)を聞きに行くことができず、何かよい方法があればいいのですが。
※	ポスターセッションの最終日は参加者が少めでしたので、最終日も参加したくなるような仕掛けがあるといいとおもいます。
※	ポスターセッション自体の長さはちょうど良いと思ったが、ポスターの発表中(自由討論や座長)に他のポスターを見に行けないのが不満だった。
※	同日の発表時間が同じだったため混みあったのと、演者は他の発表をなかなか聴きに行けなかった。
※	従来通り、偶数、奇数で発表時間を分けた方が良かったと思う。
※	自分の発表日に他のポスターを見ることができる時間が少なかった。
※	今回ポスターセッション中、一度もポスターから離れることができず、結局他の人の発表には行けなかった。ポスターの時間はこれぐらいあるといいと思うが、ずっと説明するのは正直きつかった。

質問11. 座長制について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	座長制の方向性というか、どの様に討論するようにするのかもっと明確に統一した方が良いのでは？ある座長は独りで聞いて回っているし(時間関係なし)ある座長は集めて大勢に説明させるし(後者の方がより活発な議論が出来るような気がするが)。
※	あまり機能していなかったように思います。
※	一つのポスターにかけられる時間も少なかったためか、期待したほどの議論にならなかったように思う
※	座長とのディスカッション時間に、すでにディスカッションをしていることが多々あり、それを遮ることも出来ず、進行しづらかった。
※	座長以外にギャラリーがいないと、なんのためにやっているのかわからない。ポスター数が多いので、一部のポスターには良いかもしれないが、座長のみ質疑応答はそれ以上に多いように見られた。何か別な形式の方が良いと思う。
※	ほとんど認識がなかった
※	ポスターの座長制は良くなかった。座長が回ってくる前に、すでに他の聴衆とディスカッションが盛んにおこなわれているため、座長の意味がなかったように思った。
※	座長制など廃止して自由に発表すべき
※	いつものように奇数偶数で分かれていなかったのので、同じ日のポスターを聞きづらかった
※	自分の発表と他の方の発表をみていて気づいたのですが、座長によっていろいろな方法がありました。一人ひとりに説明と質問される方、発表者全員を集めて、1発表ごとに議論する方。それぞれ良し悪しがありますが、個人的には全員で議論、というものを試してみたかったです。
※	発表時間を5分にさせていただきたいです。
※	ただ座長が回ってきて説明をさせられただけで、極めて形式的であった。さらに、他の聴講者に説明している途中に回られてきたので、議論を中断せざるを得なかった。利点がなんら見いだせない。
※	ポスター貼り逃げが減るのでとても良いと思う。しかし、今回あまり周知されていなかったのか、私が見ていたポスターセッションでは、全然人が集まっておらず、座長とポスター演者のみ、くらい閑散としていて、かわいそうなので関係ないセッションにも参加してしまうくらいであった。はじめる前に各セッションの発表者を全て集めて、全員で回っても良いのかな、と思った。
※	一般口頭発表を復活させてほしい
※	座長制は良くも悪くもない。座長制にしたことにより活発な議論があったとは思えない。
※	やる気の無い所では座長1人だけでサラッと回って軽く話して終了するなど形骸化しており、逆にやる気の有り過ぎる所では関係者に迷惑が掛かる程議論を長引かせて纏めずに時間を掛け過ぎるなど差が激しかった。臨床系の学会で各分野に同じ位興味の集まる人が居るならともかく、扱う幅が広過ぎて興味によって集まる人の差が大きい分生には向いていないシステムに思われる。
※	私の専門分野に近い領域のポスターセッションでは座長制は完全に形骸化していた。私がポスターの演者とディスカッションしていると突然座長の先生がお一人で来られて、「定刻ですので今から7分間で発表と質疑をお願いします」と割り込まれてしまった。自由にディスカッションするスタイルが定着しているところにオーディエンスを引き連れて座長制でセッションを進める形式はなじまないし、座長の先生も大変お気の毒だったので、ぜひ元に戻していただきたいです。
※	自分のポスターに張りついていないといけないう時間がながく、同日の他のポスター発表を見たり、ディスカッションする時間が取れなかった。
※	本大会の規模だとポスターが多すぎてあまり機能しているようには思えなかった。
※	座長との1対1の発表と質疑応答になっていたのので、グループの全員参加のほうが良いと思いました。
※	座長制の発表が行われる時間が様々で、ポスターの前にいない発表者も多かった。
※	今まで誰も来なくて説明の機会がない人にも機会が与えられることになるので決して悪くはなく面白い試みと思った。しかし自分が他の人に説明している途中で座長権限で割り込まれて説明が途中になり、せっかく興味を持ってきてくれた人が去って行ってしまったのを見て非常に悲しくなった。あと座長の方が興味を持って聞いてくれているか非常に疑わしく時間制限もあって困惑した。座長は知識に凝固まった年齢の上の人でなく、アクティブな若手(～助教講師くらい)の方がいいのかもしれない。

質問12. ポスター発表について <複数回答可> (その他)

回答者番号	その他記述
※	賞の選考基準がよく分からない。
※	ポスター賞も偏りがあったような・・・
※	優秀ポスター賞受賞者名の掲示が、連絡用の掲示板に小さな文字で書かれたA4の紙切れ1枚とは寂しすぎる。
※	顔写真などのついても広い会場のなかから探し出せるわけないので無意味だ。会場でビールを売るならもっと値段を安くするべき
※	ポスターのLate-breaking abstractsの100番前後の掲示場所が会場一番奥の壁側でしたが、裏側(壁と反対側で他のポスターパネルに面している)にはポスター掲示がなく、まさかその裏にポスターがあるとは思わないような状況だったために通りかかる人すらほとんどいないのが残念だった。
※	ビールの無料配布が中途半端
※	顔写真はお好みでよいと思います。優秀ポスター賞は若手には励みになると思うのですが、さらっと掲示されているだけなので、モチベーションとしてはどうか？とも感じました。
※	発表賞があることを知らない人が多かった(私も知らなかった)。もう少し周知した方がよいと思う。また、人数が多くて大変だが、webベースでPDFダウンロードなどでも良いので、賞状があったら嬉しい。
※	顔写真よりポスター内容を見るのが先だし、演者を探すよりも演者から「説明しましょうか？」と話しかけてくるのが先だ。顔写真を見て個人識別するのは意外と難しい。座長もいちいち写真をみて本人確認している様子もなかった。指導教官が不在の演者に代わって説明してくれることもあった。とすると、一体、何のための顔写真掲載なのかわからない。
※	わざわざ欧米のスタイルなど取り入れることなどせず、「日本のやり方」あるいは「日本発の新しいやり方」を目指してほしい。
※	優秀ポスター賞の設置は良いと思うが、選考方法は明確に公表されているのでしょうか？
※	ポスター賞は相変わらず判定基準と発表状況が曖昧で、ポスターより研究内容を評価するならば学会が何らかの賞を与えた上で、当該研究がpublishされた段階で受賞した著者にabstractを書かせ、学会誌かHPに掲載した方が著者の研究内容の周知やモチベーションにも繋がると思われる。ミキサースタイルについては、そもそも上司の居る前で発表する若手が飲む訳には行かず、折角の研究者と話し合う機会も相手がほろ酔いでは話にならず、完全に一部の人間の自己満足にしか思えない。顔写真は当該者以外の人立っている場合には混乱しか生じない。
※	優秀ポスター賞を受賞してもうれしかったのですが、賞状など無いのでしょうか？受賞もファイルを開かないと気付かず、メールだけでも欲しかったです。
※	会場が広すぎて間延びしている感じ・移動が大変 その割には個々のブースが混み合っていて見にくい。配置の仕方に工夫がほしい。
※	ビール提供が不快。
※	優秀(?)ポスター賞。優秀(笑)ポスター賞だと思う。世の中やはりコネですね。研究履歴で一番信用できない業績だと思った。

質問13. 年会の特別企画について、良かったと思うもの <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	興味をもてるものはありませんでした。就職活動セミナーは本当に困っている人を対象にしていない(今問題なのは若手ではなく、ポストク1万人政策のあおりをうけた40代のはず)ので、的外れではないかと思います。焦点もぼけた感じでした。ヤングサイエンティストという名称から、前世紀の感覚をうけます。若手を啓蒙したいなら他のやり方があるでしょうし、対象もねらいもよくわからないシンポジウムに感じました。
※	高校生参加
※	不参加

質問14. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナーについて（要望・その他）

回答者 番号	要望・その他記述
※	不景気のおりとは思いますが、少なくて寂しい。
※	展示会場の地図(企業等の展示ブースの場所がわかるもの)をプログラム集やWEBなどで示して欲しかった。展示ブースを探すのに手間が掛かった。

質問15. 本年会の規模について（その他）

回答者 番号	その他記述
※	小さい
※	シンポジウム会場が番号が高いほど小さくなってました。もちろん興味がない研究分野だったかも知れませんが狭すぎてシンポジウム間暑くて集中できなかった。
※	生化学会と合体してもっと大規模になるのが良いと思う。
※	ポスター会場は配置が悪過ぎる。学会誌表紙展示は会場外の廊下で十分であり、その分企業展示のブースの間隔を広げたり、ポスター間の移動距離を減らすべきであった。また、高校生の参加と学部生無料の影響かやたら人が多く、3日目午後のシンポジウムでは至る所で立ち見が出ており、会場配置が適切ではなかった。
※	そろそろ大きすぎるのかもしれない。同じ業界にいるはずなのに目の前でぞろぞろ帰る人が全く知らない人だらけだからか、なぜか参加した後すごくむなしくなる。

質問16. 本年の開催形式(単独開催)について (その他)

回答者 番号	その他記述
※	神戸であれ以上の規模で学会開催は慎むべきだと思う。神戸:単独横浜:単独or合同の方が良いと思う。
※	単独であることに意味があると思う。合同開催するくらいなら生化学会と合併してしまえばよい。合同のメリットがわからない。そもそもは分子生物学分野が新規にでき、生化学会から独立したはずでは。結局分子生物学がどの分野にも必要な学問になってきたから合同というのなら、再度合併する方が良いのではないか。他の学会と日程がかぶらないようにすれば色々な学会に参加できるのではないか？まず、合同形式にする意味を教えてください。金銭的な問題か？
※	生化学会との合同がよい。
※	初参加なので比較ができませんが、これで生化学会と合同になると、聞けない、見られない発表が増えていくのではと思います。どれくらい両学会の会員が重複しているのかわかりませんが。
※	良い悪いというより、開催時期と形式が安定しないのでややこしい。例えば、生化学会との合同による大型大会を向う10年くらい12月頭で固定化させて、その半年ほど前に小～中規模の個別研究会の合同大会の様な物を行って、発表の機会と東西地域の補完を行うなど柔軟かつ末端の研究者に負担の少ない体制は取れないものか。

質問17. 今後の大会の開催形式について <複数回答可> (合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか)

回答者 番号	合同開催が可能な学会にはどのような学会がありますか記述
※	日本進化学会
※	CSHLアジアとの共同開催がよい
※	分子生物学とか生化学とかの学問の括りが意味をなさなくなっているの、細胞生物学会も加えて、生命科学全般の学会にしては如何でしょうか？アジア最大の生命科学系学会となれば、海外からの参加者も増えるのではないのでしょうか。半分を日本語のセッション、もう半分を英語のセッションに。
※	「学会」という括りよりも、その中で行われている「研究会」「部会」の様な物の方が外部からは解り難く、意見交換の場が失われている様に感じる。分生の会員を兼ねてる他の学会役員の先生を招いて、共通分野の研究者に疑問点を打診する宣伝目的のシンポジウムを設けても良いかもしれない。

質問17. 今後の年会の開催形式について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	生化学以外でもとにかく合同開催したいのなら、分生に参加した人にはAの学会の参加費を3割引き、とかにしてそれぞれ単独開催すれば、どちらの学会にも参加する人が増えるのでは？(合同したい理由がわからないので、これで解決するのかわかりませんが)
※	横浜と神戸以外の場所でも開催してほしい。
※	分子生物学会と生化学会両方に年会費を払うお金がないので生化学会を退会しました。ぜひ合同でやってほしいですが、規模が大きくなりすぎるので今のように単独でもいいです。

質問18. その他、年会全般についてのご意見

回答者 番号	意見記述
※	内容の薄い口演発表が目立つ。オーガナイザーのお友達だけを採択するからそうなる。
※	昨年よりずっと良かった。シンポジウム、ワークショップに一般演題を採用する必要はないと思う。(招待講演者と一般演題の発表クオリティにかなりの差があった)
※	口頭発表会場が狭くて座れないことが多いと思う。
※	夜間のフォーラムに出ましたが、「一部だけ」食事が出るセッションというのはどうなのかと思う。理事会企画に食事が出て、一般申し込み企画に出なかったら、やっぱり理事会企画行きたいですものね。遅い時間ですし、フォーラム参加者全員に(食事とまではいかなくとも)ドリンクのサービスがあるならまだしも、食事のあるセッションに人が偏るとなると、ただでも集客が難しい時間ですし、来年以降一般企画を出しにくい。寂しい。いつからフォーラムはランチョンセミナーみたいな時間買収性変わったのか。
※	横浜はポスター会場が1か所なので、色々な分野のポスターをざっと見ることができてとても良いと思った。神戸だと会場が何カ所にもわかれてしまい、結局自分と関係がないと思う分野には時間が足りなくて見に行けない。
※	幅広いテーマでのシンポジウムと、ポスター発表で議論中心とした学会の方針は分子生物学会の本来の姿勢として評価できる。
※	シンポジウムの会場に入れられないものが多く、聞きたい講演がほとんど聞けなかったのがあまり面白くなかった。
※	ポスター会場が暗すぎる。あんなに暗いとポスターが見えない。規模のわりには3日間開催は短すぎる。日程が窮屈である。聴衆と会場のサイズがマッチしていないところが多かった。前年度の人気分野などを考慮して部屋のサイズを決めるべき。
※	会場の大小と聴衆の人数があっていないことがままあった。会場から溢れて外で中継するのもいいが、それではウェブセミナーと何が違うかわからない。
※	初参加ですが、大きな学会でした。聞きたい発表が自分の発表と重なっていたために、あまり勉強することができませんでした。プログラムを構成するのは大変なので仕方のないことですが、ただ聞きにくいほうが勉強になるのかもしれない、と感じました。もしくは、勉強や議論をする場ではなく、最近のトレンドを知るための場ととらえ、濃いディスカッションは小さな学会で、と分けたほうがよいのかもしれない。
※	託児施設を子供二人預けたのですが、一日2000円/人ぐらいたとポスター時間までゆつくり預けられた気がします。一時間400円2人で800円で5時間預けたら4000円で、5時間だと9時から2時しか預ける感じで、ポスター時間までだとだいたい9時間で一人5400円、3日でかなりの額になってしまい、特に若い研究者の家計にひびくような気がします。託児施設があるだけでも助かるのですが、、これから女性研究者が増えるとしたら、子連れで学会に参加する負担を少しでも取り除いてもらえたらと思います。
※	ITシステムのSNS機能搭載や優秀ポスター賞等、若手研究者にとって便利、かつ、チャンスの広がる会だったと思います。
※	二泊三日がよかった。
※	年回参加費・年会費が高い。年会費を払っている会員に対しては、年回参加費を安くするべき。
※	コンベンションセンターの女性用品の1つが正確な場所を正確に伝えることができなかったため、私は初日のポスターセッションを見逃しました。私はなぜ会長に依頼しているのですか、すべてのものを教えてください。再度、感謝します。
※	日程の都合もあると思いますが、同じ時間に平行して開催されるシンポジウムの数が多すぎると感じた。もう少し同時開催のシンポジウムの数が減れば、普段聞けない分野の話聞くチャンスが増えると思う。
※	何か新しい事をしようとする全体方針は評価するが、今年のミキサーしかり、顔写真やSNSしかり、何年か前のジャズバンドしかり、ほんの一部の人間の内輪ノリを押し付けている感じが空回っていて、見ててひたすら寒い。例えば、SNSを導入してまで交流を後押しするのに中途半端な座長制を敷いて邪魔したり、顔写真掲載を推奨させているのに演者を確実にその場に居させる時間(よくある奇数・偶数番号で時間を区切る方法など)を採用しなかったりと、やっている事が地に足が着いてない。ポスター賞を参加者全員がアプリ上から公平に匿名で投票出来る様にすれば、発表者は自分が何人に評価されたか知る事ができ、参加者は他人の発表を緊張感を持って吟味する事に繋がる。本来SNSはその様に使われるべき物であり、結局お偉方の先生が決める古い体質とは相性が悪い。
※	長すぎず、昼休憩も十分で、良かったと思います。
※	ポスター会場の暖房が強すぎる。
※	終了が6時では翌日に疲れが残らず良かったです。
※	今回は3日間の日程だったが、ちょうどよい開催期間だったと思う。ポスター会場が一つだったので、移動がしやすく、非常に良かったと思う。